

マリ農村部における子どものアソシエーションの変容に関する研究

平成 21 年入学

参加したフィールドスクール：タイ・フィールドスクール

調査地（調査国）：マリ共和国

今中亮介

キーワード：子ども、アソシエーション、年齢組織、階層構造

自分の研究テーマについて

報告者は、マリ共和国の農村部において 1990 年代以降に急増している子どものアソシエーションの増加の過程と階層化の動態を、年齢組織の解体に関する議論との関連で考察してきた。

マリを含む西アフリカのマンデ系の諸社会に特有で、社会の統合と発展に重要な役割を果たしてきた社会組織にトン *ton* がある。かつてトンは、割礼を契機に結成される年齢組とリネージに基づく地区を単位に組織され、自由民／特殊職能民／奴隷の三階層からなる身分組織を組織内部の役割において再生産する「村落社会の縮図」[Leynaud et Cisse1978]であった。

年齢組織や身分組織などトンを構造化していた伝統的な社会組織の解体が進むなかで、トンは消滅するのではなく、増加、多機能化していった。この過程で生まれ、現在まで増加を続けているのが、本研究が対象とする「子どものトン *denmisen ton*」というヴォランティアアソシエーションである。子どものトンの活動は、共同労働や集会における話し合い、サッカーやイスラーム犠牲祭における宴の実施など、社会生活の多方面におよぶ。

本研究では、子どものトンの組織化、組織間関係、個人の組織間の移動など組織の境界をめぐる動態を考察することで、子どものトンと伝統的なトンの全体において階層化がおこっていることを示す。かつて年齢組織にトンが組込まれていたように、あらかじめ定められた階層構造に子どものトンが組込まれているのではなく、組織化や活動を通して事後的に階層が形成されているのである。

フィールドスクールで得られた知見について

ストリートチルドレン支援を行う NGO の方から、チェンマイでストリートチルドレンの現状と支援活動についての講義を受けた。その夜には、街でセックスワークに従事する子どもたちに Condom を配る活動に参加させてもらい、NGO のタイ人スタッフの方から歩きながら説明を受けた。はじめに、一緒に歩くスタッフの方から自身も以前までストリートチルドレンだったという紹介を受けた。このときは気にかけていなかったが、実際に街を歩くときになってそのときの話を思い出した。スタッフの方は子どもたちに気軽に声をかけ、肩をポンと叩きながら、弾けんばかりの笑顔で Condom を渡していた。子どもたちの方とはというと、私たちが見ているせいか恥ずかしそうに、しかし、嫌そうな顔ひとつせず Condom を受け取っていた。そのとき私は、スタッフの方は子どもたちにとって同じストリートで育った「あにき」なのだろうなと思った。一方で、私は「お客さん」としてストリートにいて、そうした様子を傍観していた。

自身の調査地において本当の「あにき」にはなれないだろうし、また、純粹に「お客さん」であるこ

とも許されないだろう。外から突然やってきて何かを調べ、去っていく私が何なのかは、フィールドにいる「彼」との関係において構築されるものだし、彼に聞いたところで分かるものでもない。しかし、だからといってそこで私は私の立場について無自覚でいいのだろうか。そのことに無自覚でいることは、「あにき」と「お客さん」を手前勝手に使い分けることにつながるのではないか。私は、私が「あにき」として彼に全面的に関与できるわけでもなく、「お客さん」としてただ傍観できるわけでもない、あいまいな存在であるということ意識している必要があるのではないか。この夜の課外演習ではそのようなことを考えさせられた。

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

この度、タイ・フィールドスクールでは、主に搾取的な労働環境にあるストリートチルドレンについて学ぶ機会を得た。

マリ共和国は、アフリカの中で最も児童労働率の高い国のひとつとしてあげられ、タイと同じく都市部ではストリートチルドレンの問題がある。しかし、マリの児童労働者は村落において農作業に従事するものがほとんどである。アフリカにおける児童労働に関する研究は、少年兵やストリートチルドレン、プランテーション労働者など搾取的な労働環境にある子どもに焦点を当て、状況の改善を訴えるものが多い。一方、最も労働人口の割合の高い農村部の農業に従事する子どもは、「それほど搾取的でもなければ危険なものでもなく、職業上の訓練ないし家計のための労働力」[Bass 2004]として一元的に捉えられ、研究の対象になりにくい。しかし、換金経済が浸透し、都市部よりも在来の枠組みが残る農村部では、子どもをめぐる労働は多様な姿をみせる。

例えば、調査村において労働の形態は、①賃金が払われる／払われないか、②労働単位が個人／世帯／トンカ、という少なくとも2つの軸において様々なヴァリエーションが存在するし、単に世帯と言ってもリネージ、拡大家族、マトリセントリックグループ、母方オジを中心とする集団など様々な単位がある。このような農村における多様な労働のあり方を検討していくことが、翻って農村からの移住者で多くを占める都市のストリートチルドレン問題への新たな視角を提供できるのではないかと考える。

<引用文献>

Leynaud, Émile et Cisse Youssouf. 1978 *Paysans Malinké du Haut Niger*, Bamako, Edition Imprimerie Populaire Du Mali.

Loretta E. Bass. 2004. *Child Labor in Sub-Saharan Africa*. Boulder: Lynne Rienner Publishers.



【写真1】 トウモロコシ畑で除草作業をおこなう子どものトンの成員



【写真2】 ラッカセイの殻むき作業をおこなう子どものトンの成員



【写真3】 サッカーの試合のためにユニフォームを着ている子どものトンの成員